

## 法学科における地域連携企画とその教育上の効果

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本庄, 淳志 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010115">https://doi.org/10.14945/00010115</a>

# 法学科における地域連携企画と

## その教育上の効果

人文社会科学部法学科 本庄 淳志

法学分野のゼミでは、規範を扱う学問の性質上、フィールドワークが必須というわけではない。しかし、実務的な問題を扱う場合には、法学科においてもフィールドワークに近いことが積極的に行われている。以下ではその一例として、本年度の専門演習（労働法ゼミ）で実施した地域と連携した活動を紹介する。

労働法ゼミでは、本年度、藤枝市から「地域課題研究に係る業務委託」を受け、地方における人口流出の問題について雇用・労働の観点から検討を続けてきた。地方の人口流出問題について、特に雇用・労働の観点からリアリティーのある政策提言を行うことを最終目標に定め、まずはゼミの内部で、人口流出の要因や対応策を広く検討したうえで、11月5日～6日には、同志社大学において、首都大学東京（天野晋介先生のゼミ）、同志社大学（坂井岳夫先生のゼミ）とインターカレッジを実施した。

本ゼミからは、主に、①採用時のミスマッチ

を低減する仕組みとして、静岡県が運営する「しずおか就職net」の活用を通じた地域の中小企業と学生とのマッチングの向上、②就職後に仕事と育児・介護との両立を可能とする仕組みとして、テレワークの活用策とその法的問題点の分析、③同じく両立支援に関わるものであるが、既存の育休制度等とは異なり、企業の外部で急速に広まりつつあるベビーシッター等のマッチングサービスをめぐる法的課題の析出や対策などを軸とした提言案を示し、県外・他大学の同分野で学ぶ学生と意見交換をした。

そのうえで、11月27日には、県内の第一線で活躍する実務担当者、および県内の他大学ゼミも交えて、静岡の人口流出対策シンポジウムを開催した。同シンポは、「静岡の人口流出」をテーマとして、県内の大学生が、大学や学部を超えて日頃の研究成果を公表する機会とするとともに、同問題に実務的に対応している県内の諸団体も交えた意見交換を通じて、若者な



らでは自由な発想を活かしつつ、現実的な可能性も見据えた政策提言を行うことを狙いとしました。

同シンポには、静岡県経営者協会、連合静岡、静岡県中小企業家同友会、静岡県中小企業団体中央会、静岡県という、県内で雇用・労働問題の施策を展望するうえで不可欠の諸団体が集まり、一方、学生側としても、労働法ゼミのほか、地域マネジメント（静岡県立大学：西野勝明先生のゼミ）や、政策分析・評価（静岡文化芸術大学：田中啓先生のゼミ）という県内の他大学・異分野で学ぶ学生が集い、各ゼミによる提言をふまえ、実務家も交えて白熱した議論が展開された。同日の様子は、2016年12月5日の静岡新聞でも一面で報道されている。

さらに、2017年2月には、「静ジョブ」として、連合静岡の全面的な協力のもとで、若年世代の社会人と意見交換をする機会を設け、検討内容のさらなるブラッシュ・アップを図ったうえで、最終的には委託元である藤枝市に対して政策提言をする予定である。

これらの諸企画を通じて、研究内容の面では、地域が抱える課題について、学生が普段大学で学んでいる専門的知見を活かしつつ若者ならではの斬新なアイデアが示され、かつ、専門分野や地域の異なる学生との交流を通じて、視点の相対化が図られている。そして、地域の第一線で活躍する実務家の協力を得られたことで、よりリアリティーのある政策提言が可能となっている。

他方、このような企画自体について、教員は積極的に関わることはなく、企画・運営、諸団体（経営者協会、連合、同友会、中央会、県）や他大学のゼミ（教員）への趣旨説明や協力依頼等といったすべてにおいて、本ゼミの学生が主体的に動くこ

とで実現している。学生主体の企画は心許ない面もあるが、周囲の「大人」たちの温かい助言、協力を仰ぐことで学生にとっては他で得がたい経験となったようである。すなわち、学生にとっては、専門分野で日頃学んでいる成果を公表するという側面もあるが（狭義の教育的効果）、それ以上に、敷居の高い下準備も含め、大きな企画を自ら実現するなかで、社会人との折衝をはじめさまざまな経験を積んだことが自信に繋がっているようである。

このような多大な教育的効果のある地域連携活動には、周囲の理解と協力が不可欠であるが、快く支援してくださった方々にはこの場を借りて改めて御礼を申し上げたい。

